

山口県病院協会 会報

2017 **10月号** No.57

- 発行日 平成29年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



美祢市立美東病院

〒754-0211

山口県美祢市美東町大田3800番地

電話 08396-2-0515

FAX 08396-2-0502

URL : <http://www.mine-city-hosp.jp/mitou/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4～5ページ
木下毅会長叙勲	6～7ページ
医療懇話会報告	8ページ
研修会報告	8～9ページ
事務長部会コーナー	10ページ
医療経営講習会報告	10ページ
諸会議報告	11ページ
お知らせコーナー	12ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



美祢市立美東病院

病院長 村上 不二夫

当院の背景地域は、日本最大のカルスト台地「秋吉台」や東洋最大規模の鍾乳洞「秋芳洞」といった豊かな自然環境に恵まれ、日本ジオパークに認定されています。しかしもう一方では、他の中山間地域と同様に過疎化が進み、過去40年間で美祢市の人口は3割減少しています。

美祢市には2つの公立病院、すなわち美祢市立病院と美祢市立美東病院があります。平成の大合併で美祢市の面積は472.64km²と広くなりましたが、東西に長くなり、地域医療の中核を市の西部（旧美祢市域）では美祢市立病院、東部（旧美東町、旧秋芳町）を美祢市立美東病院が担っています。

長引く医師不足、過疎化と高齢化の進展等が少なからず病院経営を圧迫しています。平成29年3月に策定した「新美祢市病院改革プラン」では、美祢市立の2つの病院は病気を慢性的に複数、複雑に抱える高齢者に提供する医療に強みを持っていることを自覚し、そのことを地域にもアピールしていくことを謳っています。

私は元々、山口大学病院では消化器内科、特に肝臓疾患を専門としていました。その後、総合診療部にも十数年間在籍した後、美東病院に院長として赴任しました。当地域では他に総合的な医療機関がなく、かつ高齢者が中心の医療をおこなっていますので、どうしても感染症から悪性腫瘍、急性疾患から慢性疾患と幅広く診療することが求められます。また、患者さんによっては予後不良な「末期」の患者さんもおられます。こういった幅広いニーズに対応する必要に迫られますので、実際に患者さんに接しているうち、「総合診療マインド」を内外にアピールするの必要を感じて、この秋には総合診療外来を設けることにしました。

今後は地域包括ケアシステムを機能させるべく、訪問診療、訪問指導、訪問リハの強化、地域包括ケア病床の効率的運用にも積極的に取り組み、地域医療に貢献して参りたいと考えています。

〈美祢市立美東病院の現状〉

1) 概要

開設者 美祢市長 西岡 晃（にしおかあきら）

住 所 山口県美祢市美東町大田3800番地

TEL 08396-2-0515

FAX 08396-2-0502

E-mail byouinmitou@city.mine.lg.jp

URL <http://www.mine-city-hosp.jp/mitou/>

病 院 長 村上 不二夫（むらかみふじお）

診 療 科 内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、眼科、婦人科、耳鼻咽喉科

病 床 数 100床

【2階一般病棟60床（含む地域包括ケア病床8床）、3階療養病棟40床】

関連施設 美祢市立病院、グリーンヒル美祢（介護老人保健施設）、美祢市訪問看護ステーション

2) 沿革

昭和29年12月 共立美東国民健康保険病院診療開始（22床）

昭和43年4月 公営企業会計適用

昭和45年1月 病院本館全面増改築（一般80床）

平成11年12月 病院移転新築工事後、新病院供用開始（一般病棟60床、療養病棟55床）

平成17年4月 療養病棟を40床へ変更（一般病棟60床、療養病棟40床）

平成20年4月 市町合併により美祢市病院事業局美祢市立美東病院に組織が改編

平成26年9月 一般病棟60床のうち8床が地域包括ケア病床に転換

3) 特徴

総合診療だけではなく、丁寧な説明、アットホームな雰囲気づくり、親近感を持ってもらえる接し方を心掛け、地域の皆様に愛され続ける病院でありたいと思っています。

過疎地域の自治体病院であり経営は楽ではありませんが、平成27年度、28年度には初めて経常黒字となっており、今後も地域の医療ニーズに適合していくことが収益の増加につながると考えています。

協会役員コーナー

運、鈍、根



総合病院
山口赤十字病院
病院長 名西 史夫

大学時代に定年退官を迎えられる教授から最終講義でこの言葉を贈られました。卓越した研究者であり、また臨床家でもあった先生は、「一流の仕事を成し遂げるためには運、鈍、根が必要だ」と黒板に震える手で運、鈍、根の三つの字を書かれました。一流にはなれなかった同期生が集まる会では、今でも、この話がでます。運は確かに重要ですが、各人に平等に、そして公平に巡ってくるものではありません。最も大切なのは鈍と根、運が舞い降りてくるまでじっと辛抱強く待つこと、浅い知識でせっかちに表面的な解決を図るのではなく、ずっと手を休めずに動かしながら、今すぐには解決できない問題に根気強く取り組むことの大切さを若者に教えていただいたのだと思います。

どうにも対処できない状況において、今すぐには解決できなくても、なんとか持ちこたえていく能力、出口の見えない事態に辛抱強く耐えていく能力のことをネガティブ・ケイパビリティ（negative capability）と呼ぶそうです。直ちに問題点を設定し、それに対して出来るだけ早く解決策を出すというポジティブ・ケイパビリティ（positive capability）とは正反対とも言える能力です。

今後加速する人口減少、連続してマイナス改定が続くと予想される診療報酬や介護報酬、さらに深刻化が予想される地方の医師不足や医師の過剰労働など、まさに出口の見えない状況が続いています。どの問題も短い期間での本質的な解決など望むべくもありませんが、とにかく患者さんや地域の人々を大切に、働く仲間を大切に、そして日々の仕事を大切にしながら、鈍と根 打たれ強く、辛抱強く事態が好転することをハラハラドキドキしながら待つだけという気がしています。

ニシイタイ と 熱中症



光市立光総合病院
病院長 桑田 憲幸

ニシイタイと聞いて医師ならあれのことかとわかると思いますが、病院内の医師以外の医療スタッフは良くわからない事が多い様です。ニシイタイ＝西医体、正式には西日本医科学生総合体育大会、毎年夏に行われる（スキーのみ冬）富山、岐阜、静岡以西の医学部、医科大学44校によるスポーツ大会です。東日本では東日本医科学生体育大会（東医体 トウイタイ）が行われ、東西両医体の1位 2位 3位 4位 各競技部門主幹校及び前年度の全医体優勝校が出場する全日本医科学生体育大会王座決定戦（全医体ゼンイタイ）を行って全日本の王座を決定します。私の4学年上のキャプテン（鳥取大学サッカー部）、周南記念病院 竹重 元寛院長の時代には西医体3位となって全医体に出場されましたが、私が在籍した時にはいつも早い時期に敗退しておりました。

今年、第69回西医体を山口大学が主幹校として8月より開催され、私はサッカー競技の会場ドクターとして関わりました。下関の乃木浜総合公園とおのだサッカー交流公園で8月8日火曜日から開催され、13日に幕を閉じました。今年は猛暑といわれ、開催前に相談を受けたときはまず熱中症を危惧しました。日本サッカー協会では熱中症のガイドラインを出しておりWBGT（黒球式熱中症指数計）で31℃以上（人工芝では28℃以上）では試合を始めないという規制を設けております。過去のWBGTを環境省「熱中症予納情報サイト」より下関地区で見ると、平成21年～22年は11時、13時をみると30℃を切っておりますが平成26年を除いて平成23年～28年までは30℃を越え13時では31℃を越えている年もあります。安全対策委員会また熱中症対策委員会で人工芝での競技を11時30分に第2試合を行った後に、16時開催まで試合を開始しない、また試合中に飲水タイムをもうける、選手の体の冷却のため氷とタオルを各チームに配る、会場に熱中症予防の掲示をするなどの対策を行うようにして開催にそなえました。8月9日に会場の医事活動を行いました。熱中症の発生は見られませんでした。来年からも夏に猛暑が続く事も考えると、委員会の努力だけでは熱中症の予防は困難となる事が予想されます。ラグビーは開催地区を決めて、そこで毎年行っているように聞きました。サッカーをはじめ室外競技ではそのような事も考えなくてはいけない時代になってきたのかもしれない。

病院スタッフコーナー

みんな違ってみんな良い



周防大島町立
橋病院

音楽療法士 村田 智子

仙崎出身の女流詩人、金子みすゞの詩に〈私と小鳥と鈴と〉という詩があります。その詩の中にある“みんなちがってみんないい”というフレーズが好きです。私は周防大島町在住ですが、周南地域で活動している女性コーラスに所属しており、そこでまどみちお氏や金子みすゞ氏の作品も歌わせていただきました。どちらも山口県を代表する詩人で、〈ぞうさん〉や〈大漁〉などは皆さんもよくご存じだと思います。

現在は音楽療法士として勤務しておりますが、そんな私の座右の銘が“みんな違ってみんな良い”です。音楽療法という言葉はまだ認知度は低く、私が「音楽療法士です」と自己紹介すると、「どんなことをするの?」と聞かれることがあります。誰もが気分がすっきりしない時に思い切り太鼓を打ったり、大声で歌ったりして気分がすっきりした、という経験があるかと思います。音楽療法とは、音楽の三要素であるリズム、メロディ、ハーモニー、それら音楽の力を利用して対象者のQOL向上に役立てようとする

試みです。

現在は高齢者を対象にした音楽療法を提供していますが、参加される皆さんは各々出来る範囲でその時間を楽しんでいます。歌一つとっても、聞いて楽しむ人、歌って楽しむ人、その曲に思い出を馳せる人と様々です。その楽しみ方を否定せず、同じ時間を共有できたら良いのではないかと思います。各々の表現方法は違っても、今日この時間をご一緒できて良かったですよ、という気持ちで、これからも取り組んでいきたいと思っています。

管理栄養士として出来ること



医療法人扶老会
扶老会病院

管理栄養士 荒金 裕子

当院は精神疾患・認知症を専門とした病院で、比較的長期入院となる患者様が多くいらっしゃいます。私が就職して丸6年になりますが、当初と比較して感じることは、患者様の高齢化・病気の進行や薬の影響等により、嚥下機能や食欲の低下・拒食のある方が増加していることです。食事の個別対応が増えるだけではなく、今の食種では対応出来ない事例も多く見られるようになりました。そこで行ったのが「食種の見直し」です。患者様によって摂食のレベルは様々ですが、まずは嚥下機能が低下した方を対象に食種の見直しを行いました。嚥下訓練目的の「開始食」、段階的に経過観察する為の「ゼリー食」を新たに設け、順調に経過していたのですが、予定とは異なる事例が挙がるようになりました。それは、「甘いゼリーなら食べられる」と、食欲低下・拒食のある方が希望するようになったことです。今回設けた食種は嚥下訓練目的の為、短期間での提供を想定し、十分なエネルギー設定にはしていませんでした。長期間の提供となると、患者様によっては栄養量が不足するという問題があります。現在は予定とは異なる内容で対処しておりますが、何事も予定通りにはいかないことを痛感致しました。しかし、新たに物事を始める時は問題が起こって当然で、そこから改善策を考え次に生かすことが、これからの課題だと感じています。一人でも多くの患者様が笑顔になれる食事の提供を目指し、管理栄養士として出来ることに最善を尽くして参ります。

病院スタッフコーナー

日本の医療についての憂鬱



独立行政法人
労働者健康安全機構
山口労災病院
副院長 加藤 智栄

画期的な医薬品、最先端医療機器の導入は凄まじく、2011年は医薬品1兆3660億円、医療機器5775億円の貿易赤字で、14年は医薬品3兆1884億円、医療機器7962億円の赤字と報道されました（2016/7/8 日経新聞）。この間の医療費の伸びは40兆8071億円-38兆5850億円=2兆2221億円で、医薬品と医療機器の輸入増加の2兆411億円とほぼ同額です。医療費の伸びは高齢化というより輸入増加ではないか。07年に分子標的薬が承認され、一人当たり年間1000万円近くの治療が臨床現場に登場し、海外からの高額薬が増える一方で、医薬品の輸出は11年3787億円、14年1260億円と減少し、国内の医療産業は危機的です。病院も14年の消費増税の影響と高額医薬品・機器の増加により、総収入は増えても赤字の施設が増えています。

昨年、年間治療費が3500万円と話題になったニボルマブ1V当たりの価格は日本で73万円、英国で15万円と報道され、半額になっても国内外の価格格差は2.5倍です。冠動脈ステント一般型や、ペースメーカー、植込み型除細動器の保険償還価格は、それぞれ欧米の6倍以上、3倍以上、2~6倍以上で、人工股関節のステムはイタリアの8.64倍と報告されています（日医総研ワーキングペーパーNo.302）。

医療費の抑制は、医薬品や医療機器の国内外格差解消でかなり解決します。MOSS協定以来の、医療が輸出産業の犠牲みたいな事態はそろそろ終わりにしていただきたい。

多職種連携による食べることへのアプローチ



医療法人
桃崎病院
管理栄養士 嶋原 雅子

桃崎病院は下関の市街地にある療養病床128床を有する病院です。

私は当院で管理栄養士として勤務しており、患者様と接する中で食事の重要性を日々感じています。食事を提供するにあたって大切なポイントは『召し上がっていただく』ことです。現在、当院に入院されている患者様の多くは高齢の方で、低栄養、摂食嚥下機能の低下、食事に対しての意欲が低いなど個々が抱える問題が多様化し、食事へのニーズの幅も広がっています。形態、量、見た目などの要因と患者様の機能や思いとが一致しなければ召し上がっていただけないため、患者様それぞれに適応した食事内容にするには、様々な視点を持つことが重要になってきます。そこで私達管理栄養士の助けになってくれるのが、多くの病棟スタッフです。主に看護スタッフは、患者様と接する時間が長いことで、ふとした会話の中からヒントを見つけてくれたり、栄養士とは違った目線での提案をしてくれます。また、言語聴覚士をはじめとするリハビリスタッフは、機能面の評価で患者様の食べる可能性を引き出す役割を担ってくれます。このように現場と連携をとることで選択肢が増え、よりよい食事提供につながっていると思います。

また当院では、NST加算は算定していませんが、栄養サポートチームで症例検討会を開催し、多職種で話し合いを行いながら、患者様の栄養管理のサポートを行っています。

食べることは、生きること。今後も患者様の食べる力を広げることができるよう連携を深めつつ、自分自身も日々研鑽に努めていきたいと思っています。

旭日小綬章受章おめでとうございます



平成29年春の叙勲におきまして、一般社団法人山口県病院協会会長木下毅先生は、保健衛生並びに医療団体振興に尽くされた功績により、旭日小綬章を授与されました。

心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、地域医療の更なる充実発展の為に尽くされることをご期待申し上げます。

主な経歴

昭和52年11月～	医療法人愛の会光風園病院	院長・理事長
昭和54年4月～	一般社団法人山口県病院協会	理事・常任理事・副会長・会長
平成元年4月～	山口県療養病床協会	理事
平成4年4月～	一般社団法人下関市医師会	理事・副会長・会長
平成4年4月～	介護力強化病院連絡協議会	理事
平成11年4月～	公益社団法人全日本病院協会	理事・常任理事
平成13年3月～	日本療養病床協会	会長（至平成20年3月）
平成16年6月～	厚生労働省 保険医療専門	審査員
平成23年10月～	山口県医療審議会	委員
平成23年10月～	山口県医療審議会保健医療計画部会	委員
平成23年10月～	山口県医療対策協議会	委員
平成28年7月～	下関市社会福祉協議会	委員
平成28年7月～	下関市環境審査会	委員

主な賞罰

平成13年1月	全日本病院協会会長表彰
平成14年6月	山口県医師会会長表彰
平成19年11月	山口県選奨
平成23年1月	厚生労働大臣表彰



旭日小綬章



木下 毅会長

祝 辞



公益社団法人
全日本病院協会
名誉会長

西澤 寛俊

この度は、旭日小綬章を叙勲なされましたこと、誠におめでとうございます。

長年にわたり、地域医療の振興と医療業界発展に確かな礎を築き上げたご功績が認められての受章は、誠に喜ばしい限りで、大変誇りに存じます。また、先生の誠実なお人柄と公務に専念相叶う様に支えられた御家族のご尽力の賜でもあると心よりお祝い申し上げます。

木下先生におかれましては、医療法人愛の会光風園病院理事長・院長及び社会福祉明愛会理事長として、慢性期医療から在宅医療・介護サービス等、柔軟で積極的な幅広いサービスで地域医療・介護に取り組み、常に第一線の現場で地域住民の安全と健康を守る為、努力されて参りました。まさに厚生労働省が推し進めている「地域包括ケアシステム」のモデルというべき取り組みを早くから実行されており、その見識の高さに改めて敬意を表する次第です。

また、昭和54年に37歳の若さで、一般社団法人山口県病院協会の理事に就任、その後、常任理事、副会長を歴任される中で、数々の難題に取り組み、平成23年からは会長として、その類いまれな指導力を発揮し、同協会の運営に多大な貢献をなされております。

さらに、医師会活動においても、下関市医師会会長や山口県医師会代議員など要職を務められ、その力量を如何なく発揮されておられます。

日本慢性期医療協会（前 日本療養病床協会）におかれては、その前身である介護力強化病院連絡協議会の発足にご尽力されるとともに、平成13年からは会長として活躍され、平成18年頃の不合理な介護療養病床の廃止の議論に対しては、粉骨砕身、毅然とした姿勢で取り組みられたことは鮮明に記憶に残っているところでございます。

私ども全日本病院協会においても、平成7年に代議員に就任され、平成11年より理事、平成13年からは常任理事並びに介護保険制度委員会（現高齢者医療介護委員会）の委員長を務めていただいております。特に同委員会では、毎年厚生労働省事業として、認知症・在宅医療・終末期医療・地域包括ケア等に係る調査研究を多数実施されております。その研究成果は、国の審議会等の資料として、3年ごとに行われる介護報酬改定等の議論に活用され、多くの会員病院においても参考とされているところであります。その他にも、当協会の活動の基礎となる「病院のあり方に関する報告書」の執筆など、当協会の事業活動に際し、縷々ご活躍いただいておりますことに、この場をお借りして改めまして厚く御礼申し上げます。

今後とも豊富なご経験を活かされ、後進のご指導により一層ご尽力いただけますことをご期待申し上げますとともに、ご健康に留意され、ますますご活躍されますことを、心より祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

叙勲受章祝賀会開催

さる6月28日（水）、山口グランドホテルにおいて、山口県知事代理 嘉村健康福祉部審議監を始め、多数の御来賓と協会傘下の会員病院、賛助会員の参加のもと、山口県病院協会会長木下毅先生の叙勲受章記念祝賀会が盛会裏に開催されました。



医療懇話会報告

平成29年7月14日（金）午後4時より山口市湯田温泉セントコア山口において、平成29年度医療懇話会が開催された。山口県健康福祉部から岡部長ほか9名、山口県病院協会から木下会長ほか19名が出席した。

木下会長と岡部長の挨拶に続いて、健康福祉部の各課長から平成29年度の山口県健康福祉部の事業概要について説明があった。



岡部長挨拶



木下会長挨拶



医療懇話会風景

続く質疑応答では、45歳未満の医師確保問題や看護師の育成、次世代育成のための子ども政策、健診受診率向上にむけた取組み、働き方改革と地域医療のバランス、介護医療院を含めた在宅医療の問題など、県民の医療と福祉に関し多岐にわたる意見交換が行われた。

研修会報告

平成29年度 病院初級職員研修会

平成29年6月19日（月）山口県総合保健会館第1研修室において、病院初級職員研修会が開催され、192名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「山口県の病院の概況」

講師 山口県病院協会
事務局長 天津 昇次

テーマ 「接遇の心と形…
医療人として、社会人としての基本マナー」

講師 株式会社エバルス
吉田 孝子 氏

天津事務局長による山口県下病院の概況について説明があったのち、吉田氏による接遇研修が行われた。

吉田氏は、接遇マナーを身に付けることがクレームを防ぎ、また職場全体の「良き風土」作りにつながると説明された。

言葉遣いや電話応対の演習もすぐに業務に活かせる内容であり、参加者たちは真剣に取り組んでいた。



吉田 孝子氏



研修会風景

研修会報告

平成29年度 病院栄養関係職員医療安全対策研修会

平成29年9月15日（金）山口県総合保健会館多目的ホールにおいて病院栄養関係職員医療安全対策研修会が開催され、190名の参加があった。研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「食中毒予防のための正しい衛生管理について」

講師 宇部フロンティア大学 人間健康学部
教授 尾家 重治 氏



尾家 重治氏

テーマ 「大量調理における冷凍食品の上手な活用方法について 他」

講師 味の素冷凍食品株式会社 メディカルフーズ事業推進部
藤本 和輝 氏
味の素株式会社 中国支店業務用グループ
高橋 佑紀穂 氏



藤本 和輝氏・高橋 佑紀穂氏

テーマ 「皆さんで考えよう！厨房の清掃について」

講師 山口県済生会豊浦病院 栄養管理科
技士長 田尾 郁恵 氏

テーマ 「家庭の清掃方法を厨房の清掃に活かそう！！」

講師 株式会社ダスキン クリーン・ケア営業本部
中国・四国地域本部 ケアサービス運営室
ケアサービスエリアマネージャー 二分野 秀彦 氏



研修会風景



田尾 郁恵氏



二分野 秀彦氏



社会医療法人 同仁会
周南記念病院

管理栄養士 江村 初恵

～病院栄養関係職員医療安全対策研修会を開催して～

9月15日（金）に開催された研修会では、管理栄養士・栄養士・調理スタッフが参加し、厨房に関わる医療安全対策について学びました。

毎年恒例の「食中毒予防について」では、最近話題となっている、腸管出血性大腸菌などに関して学び、常日頃から衛生管理に気をつけなくてはいけないと気が引き締まる思いでした。次に「冷凍食品の上手な活用方法について」は、スチームコンベクションオープンをうまく利用して美味しく、やわらかく調理できる方法などを勉強しました。最後に「厨房の清掃について」は、まず清掃の行き届いた厨房の写真を参考に「清掃の盲点」について学びました。特に「調理」と「清掃」の制服を分けていることは意義があることだと感じました。引き続き「家庭の清掃方法を厨房に活かす」ことについて学びましたが、汚れの種類によって洗剤を使い分けることやステンレスは「目」に沿って清掃をすることなど大変参考になりました。

どのご講演も業務にすぐに生かせるものであり、自施設の衛生管理を見直す機会となりました。

今回も企画にご賛同いただき、ご準備ならびにご協力を頂きました病院協会様に心より感謝いたします。

事務長部会コーナー

平成29年度 山口県病院協会事務長部会総会及び第1回研修会報告

平成29年7月5日（水）、山口グランドホテルにおいて平成29年度山口県病院協会事務長部会総会及び第1回研修会が開催され、113名の参加があった。

【総会】

議題

事務長部会役員の改選について

任期満了に伴う役員の改選が行われ、平成29年度山口県病院協会事務長部会役員は以下の通りとなった。

部会長	橋本 雅徳 氏（周南記念病院事務局長）	常任幹事	三原 忍 氏（山口県総合医療センター事務部長）
副部会長	嶋崎 隆郎 氏（都志見病院事務長）	常任幹事	西原 寛之 氏（周東総合病院事務長）
副部会長	室田 義文 氏（尾中病院経営管理部長）	常任幹事	石川 和彦 氏（昭和病院事務長）

【説明会】

「山口県医療勤務環境改善支援センターについて」

山口県健康福祉部 医療政策課 看護指導班

山口県医療勤務環境改善支援センター

主任 坂田 浩明 氏



湯原 淳平氏

【研修会】

テーマ

「平成30年度診療報酬介護報酬同時改定で病院経営はどう変わる」

講師

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

マネージャー 湯原 淳平 氏

湯原氏は、地域医療の流れの中で制度の変化に合わせ、いかに自院の立ち位置・機能を見極め患者の受け皿を目指すべきか、医療と介護の連携をどう図っていくべきか、さまざまなデータを用いて多角的に解説された。

その後、講師を交えて開催された意見交換会にも多くの参加者があり、今後の病院経営のヒントを得るべく活発な交流が行われた。



研修会風景

医療経営講習会報告

平成29年度 夏季医療経営講習会

平成29年8月25日（金）、山口グランドホテルにおいて平成29年度夏季医療経営講習会が開催され、212名の参加があった。

テーマ・講師は以下のとおり。

テーマ 「平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定に向けて」

講師 厚生労働省保険局医療課

課長補佐 廣瀬 佳恵 氏



廣瀬 佳恵氏

同時改定への関心は非常に高く、理事長病院長・事務長だけでなく看護部長・師長の参加もあり、多くの受講者が集まった。

廣瀬氏は今後の医療政策の見通しについて直近の分析や情報を元に講演された。講演後、参加者からはいくつもの質問がなされた。



講習会風景

諸会議報告

平成29年度 第2回理事会

日時 平成29年7月28日（金）17：00～18：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 第14回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について
2. 平成29年度第1回山口県禁煙フォーラムに対する後援名義について
3. 賛助会員の退会について

【協議事項】

1. 山口県病院協会役員業務分担について
2. 平成30年度定時総会の開催日について

【報告事項】

1. 平成29年度夏季医療経営講習会について
2. 平成29年度病院栄養関係職員医療安全対策研修会について
3. 第23回四県病院協会連絡協議会の開催について
4. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療費適正化推進協議会委員
副会長 水田 英司（再任）
 - ・山口県新型インフルエンザ等対策協議会委員
理事 名西 史夫（再任）
 - ・山口県医療安全推進協議会委員
理事 名西 史夫（再任）
5. 県各種委員会等の結果報告について
 - 三浦副会長
 - ・山口県予防保健協会定例理事会（6月1日）
 - 水田副会長
 - ・平成29年度山口県献血推進協議会（5月18日）
 - 高橋常任理事
 - ・平成29年度山口県高齢者保健福祉推進会議（6月9日）
 - 西田理事
 - ・平成29年度山口県公衆衛生協会
第1回理事会・評議会（7月6日）
 - 天津事務局長
 - ・山口県総合保健会館管理組合臨時集会（5月25日）
 - ・平成29年度山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会（6月16日）
 - ・山口県予防保健協会定例評議委員会（6月22日）

【その他】

平成29年度 第1回情報管理委員会

日時 平成29年9月12日（火）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について
3. その他

平成29年度 第3回理事会

日時 平成29年9月15日（金）15：30～

開催場所 山口グランドホテル

【承認事項】

1. 平成29年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会后援依頼について
2. 平成29年度病院中堅看護師研修会について
3. 平成29年度看護補助者・介護職員研修会について
4. 平成29年度病院看護師長研修会について

【協議事項】

1. 第23回四県病院協会連絡協議会の提案議題について
2. 平成30年度定時総会時の特別講演について

【報告事項】

1. 会員の退会について
2. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県専門医制度協議会委員
副会長 三浦 修（新任）
3. 県各種委員会等の結果報告について
 - 木下会長
 - ・第94回山口県医療審議会医療法人部会（7月27日）
 - 三浦副会長
 - ・平成29年度第1回山口県専門医制度協議会（9月14日）
 - 天津事務局長
 - ・平成29年度山口県男女共同参画推進連携会議（7月26日）
 - ・優良事業者育成支援事業検討会（7月27日）

【その他】

1. 平成29年度病院実態調査表より診療報酬改定に伴う要望等について

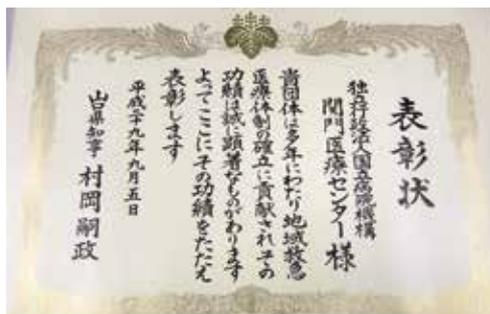
お知らせコーナー

山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、次の病院に決定し、9月5日山口県庁において伝達されました。

おめでとうございます。

独立行政法人国立病院機構 関門医療センター（病院長 林 弘人）



日本医療マネジメント学会 第16回山口県支部学術集会

日本医療マネジメント学会山口県支部学術集会が、柳井市で開催されますのでご案内いたします。

会 長 山口県厚生農業協同組合連合会 周東総合病院 院長 馬場 良和

日 時 平成29年11月11日（土）13：00～17：00

会 場 周東総合病院（柳井市古開作1000番地1）

テーマ 山口県における医療の現状と今後の展望 ～急性期医療と高齢化社会を支えるために～

特別講演 「社会保障改革の動向とこれからの医療・介護」

国際医療福祉大学大学院 副大学院長 中村 秀一 先生

シンポジウム 「病棟看護師さん 困っていませんか？退院支援」～お互いの立場で問題解決～

【お問い合わせ先】周東総合病院 総務課 電話0820-22-3456（代表）

会員病院の退会

・綿田内科病院

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|---------------|------------------|
| ○10月4日 | 中堅看護師研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○11月14日 | 第4回理事会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○12月4日 | 看護補助者・介護職員研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○12月14日 | 看護師長研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○12月19日 | 第3回情報管理委員会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○1月6日 | 新年互礼会 | （会場：ホテルニュータナカ） |
| ○1月26日 | 四県病院協会連絡協議会 | （会場：山口グランドホテル） |

編集後記

今月号の表紙は、美祢市立美東病院です。医師になりたての頃、土日の当直にお伺いしたことが懐かしく思い出されます。地域に一つの病院ということで、内科、外科全般、耳鼻科や眼科の患者さんまで診察し、断らない救急の基礎を叩き込まれました。◆山口県病院協会 木下会長の叙勲、誠にありがとうございます。現役の会長ということで特別印刷にしたいところです。◆役員コーナー、スタッフコーナーでは、それぞれの皆さまからお人柄が表れる素敵な記事をいただきました。ますます混迷を深める医療界ですが、詩人ジョン・キーツのNegative capabilityで乗り切りたいと思います。◆このたび、関門医療センターが山口県救急医療功労者知事表彰をいただきました。ご推薦をいただきました山口県病院協会の皆さま、日夜救急を支えている病院スタッフに深謝いたします。（林 弘人）